

# 洛北SSHだより

## Super Science Highschool

2009年11月4日発行 第7号  
・生命科学特別講義, 校外学習  
高校1年中高一貫コース

### 生命科学 I 特別講義③

「森林生態学へのいざない-熱帯雨林にみる共生関係-」

講師 総合地球環境学研究所 教授 湯本 貴和 先生

9月30日(水)の5・6限に総合地球環境学研究所の湯本貴和先生に講演していただきました。毎年講演していただき、今年で3年目となりました。

先生は、ボルネオの熱帯雨林をはじめとして世界にある様々な森林で高い木に登り、今までにわからなかった様々な生物の生態を観察してこられました。その中でも森に見られる生き物の共生関係とそれによって生まれる多様性について、数々の珍しい写真を使って紹介していただきました。中でも印象に残っているのは、高い木の上に生える着生植物やつる植物、葉や花に擬態した昆虫の不思議な姿がまさに熱帯雨林にすむ生物の多様性をものごとくしているようでした。

熱帯雨林の林冠を調査するために飛行船やクレーンをつかったり、日本の得意とする木のタワーをつくることなどが興味深いことでした。

最後に、お帰りになる前に生徒の皆さんに対して右のようなメッセージを残してくださいました。森林を研究なさってきた先生らしい言葉で3年目の特別講義を締めくくっていただきました。



地球と生きることは  
木  
木と生きること。

2009. 9. 30  
総合地球環境学研究所  
湯本 貴和

### 生命科学 I 校外学習 「動物園実習」

講師 京都大学野生動物研究センター 准教授 田中正之 先生  
京都市動物園 獣医師 坂本英房 先生

10月22日(木)の午後に1組、23日(金)の午後に2組が、京都市動物園にて校外学習を行いました。9月に行われた中道先生の講義で学んだ、観察による動物行動記録法を実践するのが目的です。昨年度から連携している京都大学野生動物研究センターの田中正之先生に指導をお願いして、対象は霊長類(アカゲザル、マンドリル)と草食獣(ブラジルバク、キリン)の母子と決まりました。それぞれの動物の生態によって母子関係が大きく異なることが行動からはっきり示されました。ごく時間が限られた実習ではありましたが、生徒たちには動物行動学の良い入門となりました。

その後はチンパンジーやゴリラの飼育展示を見学し、獣医師の坂本英房先生をはじめとするスタッフの方々から、これらの類人猿や野生動物の生息地の現状や生態について貴重なお話を伺いました。生徒らも慣れ親しんだ動物園は、第一線の研究施設として大きく変貌中です。そんな時期を得た今回の校外学習は、生徒たちにこれまでと違った動物園の楽しみ方を提示し、知的好奇心を大いに刺激する企画となったと思われまます。